

住人十色

第 121 回

小田の魅力がみんなに届くように 「おだいじPROJECT」で情報発信

水本 誠時さん(25) 吉野川



◎愛用のカメラと作品を手に笑顔を見せる水本さん。地域おこし協力隊の岡山さんたちと、どい書店を拠点に活動中

合同会社「おだいじPROJECT」を今年3月に立ち上げた水本誠時さん。林業の仕事や地域イベントを写真や映像で記録し、SNSなどで発信しています。

以前、『月間愛媛こまち』を作っていた水本さんは、「小田の魅力を発信したくて、出版社に就職して勉強した。5年は頑張るつもりだったけれど、体調を崩して少し早めに戻ってきた」と苦笑い。でも、そのおかげで、どい書店を拠点に活動を始め、多くの仲間に出会うことができました。「収入は少ないけれど、どい書店の仲間との活動は楽しい。勢いも感じる」と声を弾ませます。

会社名の「おだいじ」には「小田が大事」「小田を維持したい」という思いが込められています。水本さんは「今、自分たちの世代が動かないと、地域が廃れてしまう。ふるさとをなくしたくないという思いが自分を動かしている」と力を込めます。「すぐに効果が出なくても、情報を発信することが大事。近くでも遠くでも、小田のことを思ってくれる人が増えたら、それが地域の力になる」と期待します。最後に水本さんは「多くのの人に喜んでもらえる仕事をしたい。企画や写真が得意なので、手伝えることがあれば声を掛けてほしい」と笑顔で呼び掛けました。

編集 幸記

▽ブルースカイの取材で、山口県へ行きまして。片腕だけで振り抜いたとは思えないほど鋭い打球に、明るい表情。障がい者の皆さんが頑張る姿が、今も目に焼き付いています。日常の小さな悩みななかで、くよくよしていられません(航)
▽暑さが容赦ないので、取材に行くたび、ビシヤビシヤです。なのに膨らみ続けるおなか……。20数年前の爽やかな汗は再現不可能です。しばらくお見苦しいと思います(裕)が、ご了承ください(裕)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

